

2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

ジオマテック株式会社
create coating solutions

2022年11月8日

第2四半期 業績

当社は、2022年8月8日付で連結子会社であった吉奥馬科技（無錫）有限公司の全出資持分を譲渡したことに伴い、第1四半期累計期間までは連結決算でありましたが、当第2四半期累計期間より非連結決算へ移行いたしました。
本資料はすべて単体の数値（参考情報含む）で作成しております。

(参考)

単位：百万円

	2022.9	2021.9	前年同期比	
	(2Q-FY23)	(2Q-FY22)	増減	増減率
売上高	3,079	2,816	263	9.3%
営業利益	228	82	146	176.2%
(営業利益率)	7.4%	2.9%	-	-
経常利益	296	104	192	184.8%
四半期純利益	△ 203	98	△ 301	-
1株あたり 四半期純利益 (円)	△ 25.77	12.43	△ 38.19	-
加工高	2,669	2,384	285	11.9%

※加工高とは、売上高から基板材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。

財務概要

単位：百万円	2022.9	2022.3	増減
流動資産	13,809	13,259	550
現金・預金	5,397	5,584	△ 187
受取手形・売掛金	5,281	4,984	297
電子記録債権	628	530	98
棚卸資産	1,748	1,598	150
その他	754	560	194
固定資産	4,672	5,508	△ 836
有形固定資産	2,645	2,646	△ 1
無形固定資産	77	69	8
投資その他	1,949	2,792	△ 843
合計	18,482	18,768	△ 286

単位：百万円	2022.9	2022.3	増減
負債	8,268	8,355	△ 87
支払手形・買掛金	5,174	4,815	359
借入金等	2,160	2,154	6
その他	933	1,385	△ 452
純資産	10,214	10,412	△ 198
株主資本	10,128	10,332	△ 204
評価・換算差額等	86	80	6
合計	18,482	18,768	△ 286

自己資本比率	55.3%	55.5%	△0.2pt
1株あたり純資産(円)	1,291.32	1,316.34	△ 25.02

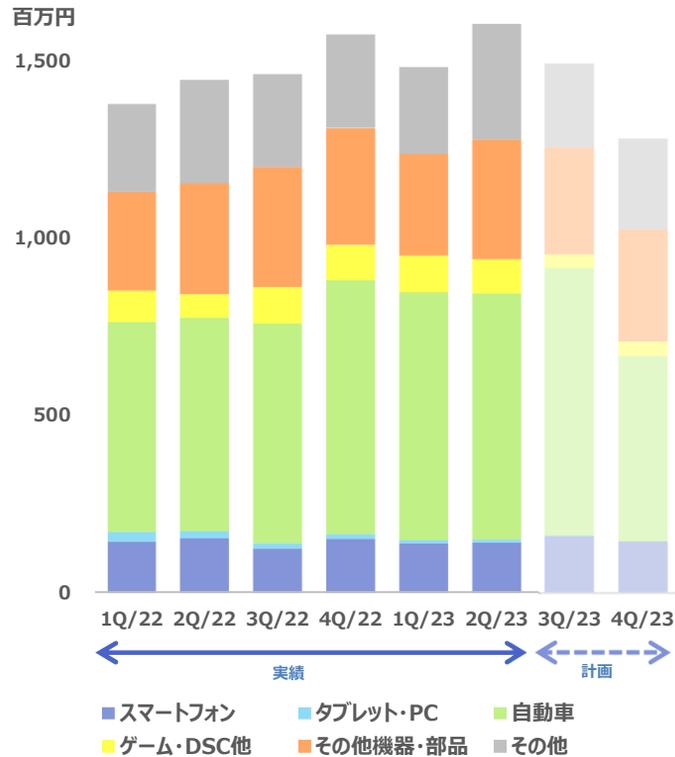
キャッシュフロー概要

前年同期の単体キャッシュ・フロー計算書を作成していないため、当第2四半期のみ記載しております。

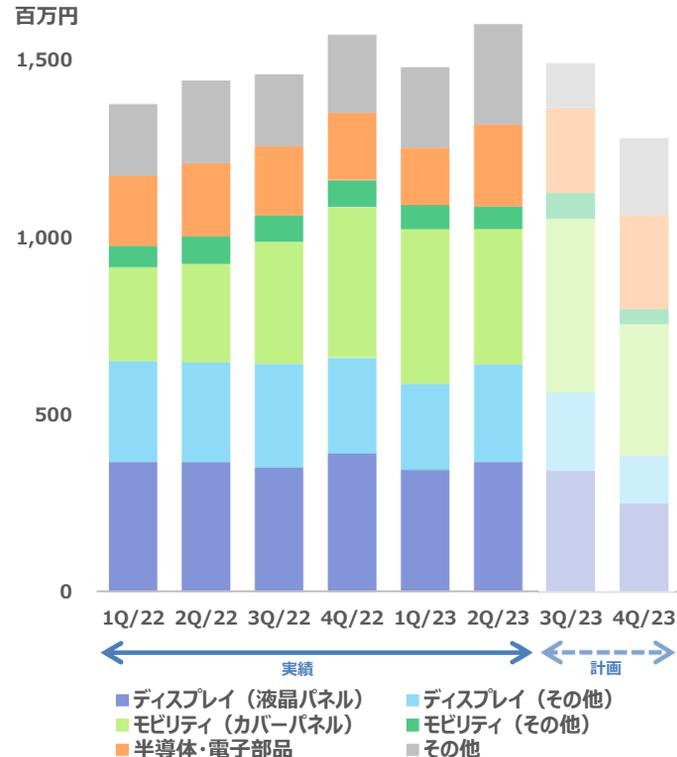
単位：百万円	2022.9
営業活動によるCF	292
税引前四半期純利益	△ 197
減価償却費	172
その他	317
投資活動によるCF	△ 196
固定資産の取得	△ 590
その他	393
財務活動によるCF	5
借入金の借入・返済	5
その他	0
現金等に係る換算差額	10
現金等の期末残高	5,697
フリーキャッシュフロー	96
NET CASH	3,536

四半期売上実績

最終製品別売上高推移



品目別売上高推移



2023年3月期 業績見通し

単位：百万円	2023/3					2022/3
	通期計画	1 H実績	2 H計画	前期比		実績 (参考)
				金額	増減率	
売上高	5,850	3,079	2,771	4	0.1%	5,846
営業利益	50	228	▲ 178	▲ 169	-	219
営業利益率	0.9%	7.4%	▲ 6.4%	-	-	3.7%
経常利益	135	296	▲ 161	▲ 193	-	328
当期純利益	▲ 370	▲ 203	▲ 167	158	-	▲ 528

加工高	5,120	2,669	2,451	118	2.4%	5,002
研究開発費	300	144	156	6	2.0%	294
設備投資額	600	169	431	▲ 588	▲ 49.5%	1,188
減価償却費	390	173	217	173	79.7%	217

連結子会社の持分譲渡

当社は、2022年8月8日付で連結子会社である吉奥馬科技（無錫）有限公司の全持分を譲渡いたしました。

1. 持分譲渡の理由

吉奥馬科技（無錫）有限公司は、2002年6月に設立し、主に液晶表示パネル用基板、車載機器用カバーパネル等の成膜加工を主体として、当社の連結子会社として事業を営んでまいりました。しかしながら、中国市場においてスマートフォン向け液晶パネル関連製品への需要低迷が継続し回復の見込みが厳しいこと、また、昨今の世界的な原油高、物価高の影響により日本経済も厳しい局面を迎えることが想定されていることから、今後の当社事業の方向性を勘案した結果、当社として経営資源を日本国内へ集中することが最優先であると判断し、今般、当社が保有する吉奥馬科技（無錫）有限公司の全出資持分の譲渡を決定いたしました。

2. 譲渡する相手会社の名称

廈門鐳龍投資管理有限公司

3. 譲渡の時期

持分譲渡契約締結日 2022年8月4日

持分譲渡実行日 2022年8月8日

4. 異動する子会社の名称、事業内容

(1) 名称 吉奥馬科技（無錫）有限公司

(2) 事業内容 液晶表示パネル用基板、車載機器用カバーパネル等の成膜加工、関連製品の製造販売

5. 売却後の持分比率

売却後の持分比率 -%

① 成膜加工QCDT（quality, cost, delivery, technology）の更なる強化

当社グループの基幹事業における有望市場の変遷やサプライチェーンの統合・再編による競合環境に加え、昨今のパンデミック・地政学的影響による環境変化にも対応すべく、成膜専業メーカーとしてのQCDT強化を図ってまいります。

- ・ モノづくり戦略見直しの一環として、各製造拠点での製造品目特性に則した品質ロスコストの低減と歩留り改善、自動化及びIT化による工程作業効率や装置設備の使用効率改善によって、品質と生産性の更なる向上を継続して進めております。
- ・ 急激な市況変化やサプライチェーンの混乱による需給変動にも柔軟に対応すべく、顧客との先行情報共有や自社内プロセスの短縮に加えて、調達や加工工程の複線化にも取り組んでおります。
- ・ 商材カテゴリー毎に細分化した職能横断的なタスクフォースを展開し、個々の商材ニーズの発掘や創出と、ニーズに則した競争力の向上に取り組んでおります。

② 特定市場への過度な依存からの脱皮

従来の当社主要市場であるスマートフォン用中小型FPD市場では、液晶パネル関連需要の減速と有機ELパネルへの移行が加速しているため、特定市場への過度な依存から脱皮し、成長分野へと事業領域拡張を進めております。

- ・ 成長性を見込む対象市場を、ディスプレイ・モビリティ・半導体及び電子部品関連の3分野に設定して分野別対応策や体制再編を段階的に実行することにより、事業及び商材ポートフォリオの転換に取り組んでおります。
- ・ 研究開発部門では先行技術の開発に、製造技術部門では既存技術の応用や製法の多角化に各々注力すると同時に、相互連携を強化して成長を支えるコア技術の創出に取り組んでおります。
- ・ これまでの部分工程受託で培った、技術や製造ノウハウ・装置調整や工程及び設備設計といった「匠」のコンサルティングも事業商材と位置付け、協業も積極的に活用することで新たなビジネスモデルの拡張に取り組んでおります。

③ 経営体質の更なる強化

上述のような、既存分野と新規分野における事業成長の直接的な取り組みと同時に、経営体質の強化も進めております。働き方の見直しによる管理間接費のムダ取りと回収進捗の可視化による投資効果の見極めにより、経営効果に直結する支出管理の徹底に取り組んでおります。

- ・ 「2025年の崖」リスクの回避に向け、基幹ITシステムの置換と併せ各種データのデジタル化及び共有活用とBI化といったDXを進めると同時に、関連業務自体の見直しで経営の効率化に取り組んでおります。
- ・ また、前述の全ての対策効果を最大化するために、現場での意識改革を主眼とする
- ・ 全従業員参加型の企業風土改革プロジェクトを並行して推進しております。